

科目名	カルチュラル・スタディーズ						
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n)を参照				
開講期	秋学期	開講学部等	文化学部	配当年次	2年次	単位数	2単位
教員名	倉科 岳志, 近藤 剛, 田中 里奈						

授業概要／Course outline

カルチュラル・スタディーズとは、第二次大戦後、イギリスで生まれた新しい文化研究の方法である。正統的で支配的な単一の文化の研究でなく、むしろそれに対抗するポピュラー文化、対抗文化（カウンター・カルチャー）、サブカルチャーなどを研究対象とし、それを権力や伝統との関係においてとらえようとする学問である。

本授業では、このような新しい文化研究の流れと関係のある著作を選んで紹介する。それらを学ぶなかで、被支配者階級、マイノリティ、大衆といった比較的新しい研究対象への視座を養ってほしい。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

授業内容・授業計画／Course description・plan

第1回 担当者紹介とカルチュラル・スタディーズへの招待（倉科、近藤、田中）

第2回 テーマ：「ナチズムの思想解剖①—擬似宗教としてのナチズム—」（近藤）

デマゴグとポピュリズムによって危機に瀕するデモクラシーの実情を垣間見るとき、ナチズムの悪夢が思い浮かぶ。この授業ではナチズムを「負の思想文化遺産」と位置づけ、その思想解剖を試みる。初回はナチズムの擬似宗教的な側面を取り上げる。ナチズムはキリスト教の言語とイメージを流用してドイツ国民を幻惑したことで知られている。ニュルンベルク党大会における宗教的演出、視覚表象の魔術化、プロパガンダの問題などを指摘する。

第3回 テーマ：「ナチズムの思想解剖②—ヒトラーの蔵書—」（近藤）

アメリカ議会図書館にあるヒトラーの蔵書リストを手掛かりに、独裁者の思想形成がどのように行われたのか批判的に考察する。また、20世紀初頭のドイツにおけるオカルティズムの思想についても取り上げ、ヒトラーへの影響について考える。

第4回 テーマ：「ナチズムの思想解剖③—アリア人種の神話—」（近藤）

ナチ・イデオロギーの核心は反ユダヤ主義と東方ゲルマン帝国構想にあるが、それらの思想的淵源はアリア人種の神話にまでさかのぼる。ヨーロッパにおける人種主義と民族主義の源泉であるアリア人種の神話について批判的に考察する。

第5回 テーマ：「ナチズムの思想解剖④—反ユダヤ主義の起源—」（近藤）

反ユダヤ主義の起源について歴史的に説明する。とりわけ、宗教改革者ルターはヒトラーの先駆者であったという俗説について、ルターのテキストを丹念に読み解きながら問題点を指摘する。宗教の政治利用についても批判的に取り上げる予定である。

第6回 テーマ：ナチズムと音楽（田中）

ナチス・ドイツは自らのイデオロギーをさまざまな文化政策を通して大衆に発信した。音楽もそのひとつだ。第6回授業では、ナチス政権下のアーティストや鑑賞者が、音楽活動にどのように関わったのか、関わった人たちは戦後どうなったのかを見ていく。当時の出来事を踏まえて、2022年以降のウクライナ侵攻における音楽業界の反応と結び付けて考えてみたい。

第7回 テーマ：演劇に描かれたナチズム（田中）

第7回授業では現代に視点を移し、今日の私たちが見聞きすることのできる演劇・ミュージカル作品にナチズムがどのように描かれているのかに注目する。2015年にドイツで上演されて物議をかもした演劇『我が闘争』や、ナチズム礼賛ミュージカルをシニカルに描いたミュージカル『プロデューサーズ』などの例を見つつ、ナチズムを今日扱う際に気を付けるべき点を一緒に考える。

第8回 テーマ：「ディストピアの思考実験①—家族解体—」（倉科）

ヨーロッパの思想家たちの著作を織り上げて解説し、その観点から日本の作家村田沙耶香と伊藤計劃によるディストピア小説を解析する。初回は家族解体をテーマに、M・フーコーの『性の歴史』を読解し、人間の生殖を公的に管理する「生政治」の問題を念頭に置き、そうした政治が実現した社会とはいかなるものか、村田の『消滅世界』『生命式』などを読みながら検討する。

第9回 テーマ：「ディストピアの思考実験②—意思解体—」（倉科）

H・アーレントの『人間の条件』から「労働」、「活動」、「社会」の概念などを検討する。「労働」が最優先された「社会的領域」が完全展開され、安心・安全で社会が実現し、快楽が最適化された社会の先には何が待っているのか、伊藤の『ハーモニー』を読みながら考察する。

第10回 テーマ：「ディストピアの思考実験③—生命解体—」（倉科）

G・アガンベンの『ホモ・サケル』から「殺されても罪を構成せず、宗教的犠牲にもならない人間」たる「聖なる

人」について検討する。そのうえで、この「聖なる人」を選別する基準とは何で、だれがその選別をするのか、現代においてはいかなる存在かなどを考察する。そして、あらゆる人間の生命が標準化された社会とそれを作り出している「人権」の条件を検討しつつ、それが実現してない社会との関係はどうなっているのか、伊藤の『虐殺器官』とともに考える。

第11回 テーマ：「ディストピアの思考実験④—知識解体」（倉科）

P・レーヴィ『溺れる者と救われる者』を読み人間の意思と知識の関係について検討し、自己正当化の論理について、そして実際には大多数であった「灰色の領域」について考察する。そのうえで、テクノロジーが発達した現在においてそのような論理がいかに展開されるのか、村田の『半変身』を読みながら考える。

第12回 テーマ：ディストピアと演劇（田中）

ディストピアという概念は、文学だけでなく、演劇や映画、ラジオ・テレビドラマ、漫画・アニメ・ゲームといった多様な表象文化の中で、さまざまに工夫を凝らして表現されてきた。第12回授業では、20世紀の不条理演劇と呼ばれるジャンルにおいて、ディストピアがどのように表現され、当時の新しいメディアやテクノロジーをどう採り入れたのかを見ていくことで、現代のディストピア表象のあり方へとつながる軌跡を辿ってみたい。

第13回 テーマ：ディストピアを演じる（田中）

第13回授業では、現代に視点を移し、今日の私たちがプレイヤーとして参加することを求められる演劇・ゲーム作品に見られるディストピア表象に注目する。テレビゲーム『ファイナルファンタジーX』やTRPG『パラノイア』、Zoom演劇『クライスキー・プロジェクト』といった事例を見つつ、私たちがディストピアをフィクションの枠内で演じることの可能性と問題点について一緒に考えたい（取り上げる作品は変更する場合がある）。

第14回 臨時試験／授業の総括・補足・まとめ（倉科、近藤、田中）

★オンデマンド授業：各担当者による担当回の総括と補足、臨時試験の提示（倉科、近藤、田中）

※オンデマンド授業の配信時期については授業内およびmoodleで周知する

※授業内容は一部変更する場合がある。

事前・事後学修／Preparation and assignments

※原則として、事前学習は各授業2時間、事後学習も各授業2時間必要である。下記の内容を確認して、しっかりと事前・事後学習に取り組むこと。

第1回 担当者紹介とカルチュラル・スタディーズへの招待（倉科、近藤、田中）

【事前学習】シラバスをよく読んでおくこと。

【事後学習】学期全体の流れを把握しておくこと。

第2回 テーマ：「ナチズムの思想解剖①—擬似宗教としてのナチズム—」（近藤）

【事前学習】デマゴグ、ポピュリズムについて調べておくこと。また、民主シーの危機的な状況について、時事問題等を参照し、考えておくこと。ドイツ史におけるナチズムの成り立ちについて、歴史的な背景を調べておくこと。

【事後学習】授業内容を振り返り、学んだテクニカルタームを再確認し、不明点があれば調べ直して、自分なりに理解を深めておくこと。授業内容を400字程度でまとめておくことが望ましい。

第3回 テーマ：「ナチズムの思想解剖②—ヒトラーの蔵書—」（近藤）

【事前学習】ヒトラーについて、人名事典等で調べておくこと。

【事後学習】授業内容を振り返り、学んだテクニカルタームを再確認し、不明点があれば調べ直して、自分なりに理解を深めておくこと。授業内容を400字程度でまとめておくことが望ましい。

第4回 テーマ：「ナチズムの思想解剖③—アリア人種の神話—」（近藤）

【事前学習】ドイツ史における人種主義、民族主義、国家主義について、歴史的な背景を調べておくこと。

【事後学習】授業内容を振り返り、学んだテクニカルタームを再確認し、不明点があれば調べ直して、自分なりに理解を深めておくこと。授業内容を400字程度でまとめておくことが望ましい。

第5回 テーマ：「ナチズムの思想解剖④—反ユダヤ主義の起源—」（近藤）

【事前学習】ルター、ワーグナー、ニーチェについて、人名事典等で調べておくこと。

【事後学習】：授業内容を振り返り、学んだテクニカルタームを再確認し、不明点があれば調べ直して、自分なりに理

解を深めておくこと。授業内容を400字程度でまとめておくことが望ましい。

第6回 テーマ：ナチズムと音楽（田中）

【事前学習】第6～7回は、これまでの授業内容を踏まえて具体例を見ていく応用編である。なので、第2～5回の授業で学んだ内容を整理し、いつでも参照できるようにしておく。

【事後学習】授業で配布した資料や講義のパワーポイントを参照し、授業の内容、扱った作品について理解を深める。

第7回 テーマ：演劇に描かれたナチズム（田中）

【事前学習】第6回で学んだ内容を踏まえて、今日私たちの身の回りのどこに「ナチズムっぽい」ものがあるのか、インターネット検索等で調べてみる。

【事後学習】授業で配布した資料や講義のパワーポイントを参照し、授業の内容、扱った作品について理解を深める。

第8回 テーマ：「ディストピアの思考実験①—家族解体」（倉科）

【事前学習】 「ディストピア」「家族」を辞書で調べておく。

- 【事後学習】授業内容を理解しまとめる。
- 第9回 テーマ：「ディストピアの思考実験②－意思解体」（倉科）
 【事前学習】「意思」を辞書で調べておく。
 【事後学習】授業内容を理解しまとめる。
- 第10回 テーマ：「ディストピアの思考実験③－生命解体」（倉科）
 【事前学習】「人権」を辞書で調べておく。
 【事後学習】授業内容を理解しまとめる。
- 第11回 テーマ：「ディストピアの思考実験④－知識解体」（倉科）
 【事前学習】「真理」を辞書で調べておく。
 【事後学習】授業内容を理解しまとめる。
- 第12回 テーマ：ディストピアと演劇（田中）
 【事前学習】第12～13回は、これまでの授業内容を踏まえて具体例を見ていく応用編である。なので、第8～11回の授業で学んだ内容を整理し、いつでも参照できるようにしておく。
 【事後学習】授業で配布した資料や講義のパワーポイントを参照し、授業の内容、扱った作品について理解を深める。
- 第13回 テーマ：ディストピアを演じる（田中）
 【事前学習】第12回で学んだ内容を踏まえて、今日私たちの身の回りのどこに「ディストピア」を表した作品があるのか、インターネット検索等で調べてみる。
 【事後学習】授業で配布した資料や講義のパワーポイントを参照し、授業の内容、扱った作品について理解を深める。
- 第14回 臨時試験／授業の総括・補足・まとめ（倉科、近藤、田中）
 【事前学習】解答する内容をしっかり把握しておく。
 【事後学習】解答内容を振り返り、自己評価にまとめておく。
- 臨時試験／授業の総括・補足・まとめ（倉科、近藤、田中）
 ★オンデマンド授業：各担当者による担当回の総括と補足、臨時試験の提示（倉科、近藤、田中）
 【事前学習】3名の担当者による授業内容を振り返り、論点をまとめておく。
 【事後学習】提示された問題について、いずれを解答するか考え、解答内容を自分なりにまとめておく。

授業の到達目標／Expected outcome

- ・各担当者が取り上げる著者およびその著作、新たに切り開かれた視点を深く理解し、現代の諸事象を把握・分析し問題提起できるようになる。
- ・「ナチズム」「ディストピア」に関する研究や言説を正確に理解し、現代的な文脈でとらえ直すことができるようになる。
- ・「ナチズム」「ディストピア」に関わる表象文化を様々な視点から批判的に読み解き、自身の考えを述べられるようになる。
- ・「家族」「意思」「生命」「知識」について批判的に考察し、自分の考えを述べるられるようになる。
- ・「文化」と「権力」または「文化」と「政治」の関係について理解を深め、自分なりの考えを述べられるようになる。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

- ・思考力
- 専門知識・専門技能
 【文化学部 国際文化学科】
 - ・人文学に関する知識
 - ・異文化間の課題を解決する能力

履修上の注意／Special notes, cautions

- ・配布された資料はよく予習してくること。
- ・普段から社会現象に関心をもつこと。

評価方法／Evaluation

- ・平常点40%、臨時筆記試験60%

教材／Text and materials

- ・各担当者より、随時レジュメ等の資料が配布される予定である。
- ・参考文献は、各担当者より授業内で随時紹介する予定である。

質問や相談の方法／Instructor contact

- ・各担当者の研究室・オフィス・アワー：moodle記載の情報を確認すること。
- ・各担当者の連絡先：moodle記載の情報を確認すること。
- ・授業に関する質問や相談などがある場合はオフィス・アワーとして指定された日時に研究室を訪問するか（あら

かじめアポイントを取ることが望ましい) , メールにて質問する。